

決算説明会

2023年3月期 第2四半期決算

2022年11月30日

株式会社 大真空（証券コード：6962）

代表取締役社長 飯塚 実

2023年3月期 第2四半期業績報告

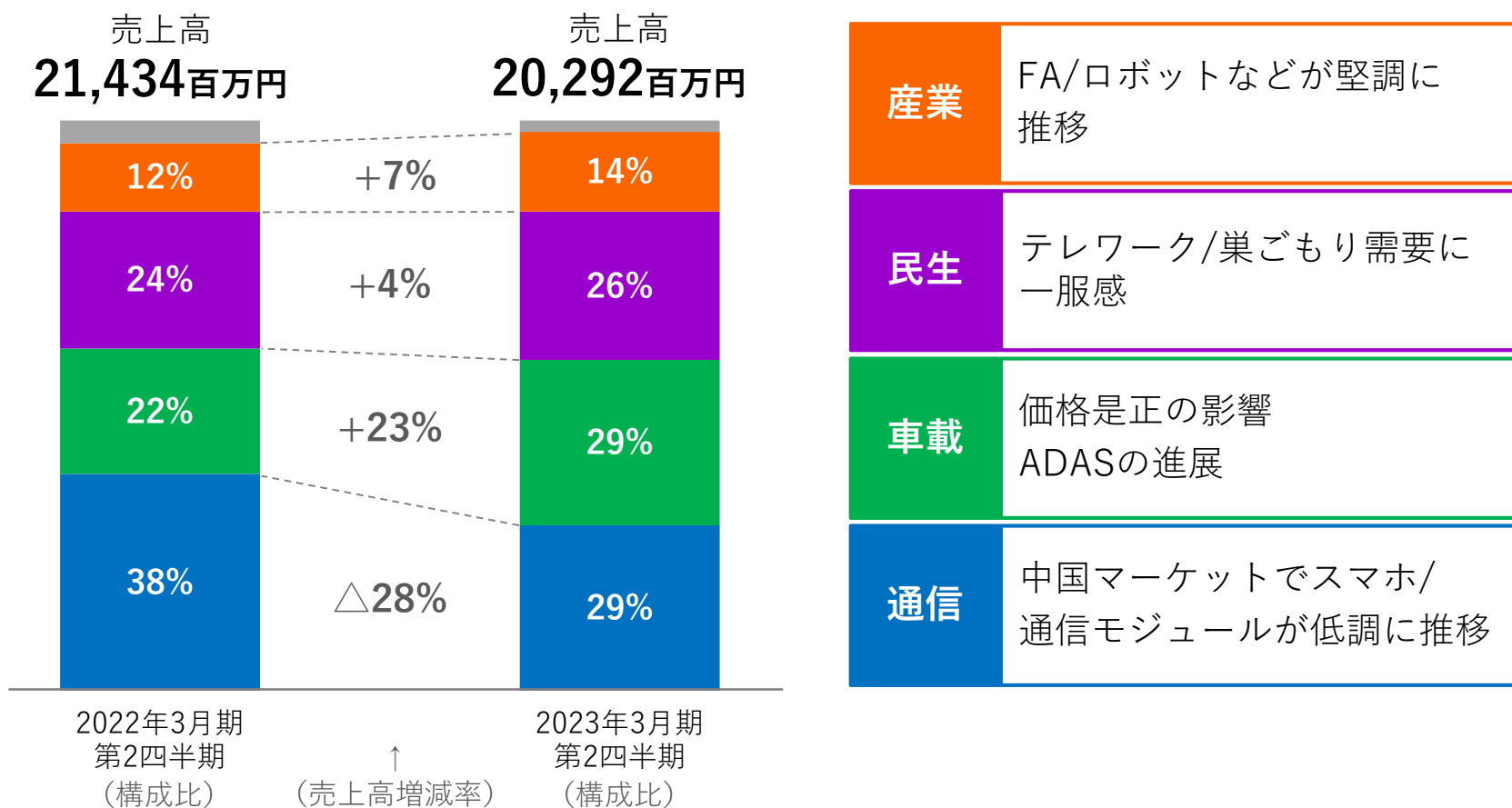
減収増益（過去最高益）

単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	21,434	20,292	△1,142 ↓	△5.3%
営業利益	2,762	2,810	+48 ↑	+1.7%
経常利益	3,042	4,751	+1,709 ↑	+56.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,773	2,986	+1,213 ↑	+68.4%
USD平均レート（円）	109.81	134.03	+24.22 ↑	-

用途別販売実績（前年同期比）

中国の通信マーケットが減速

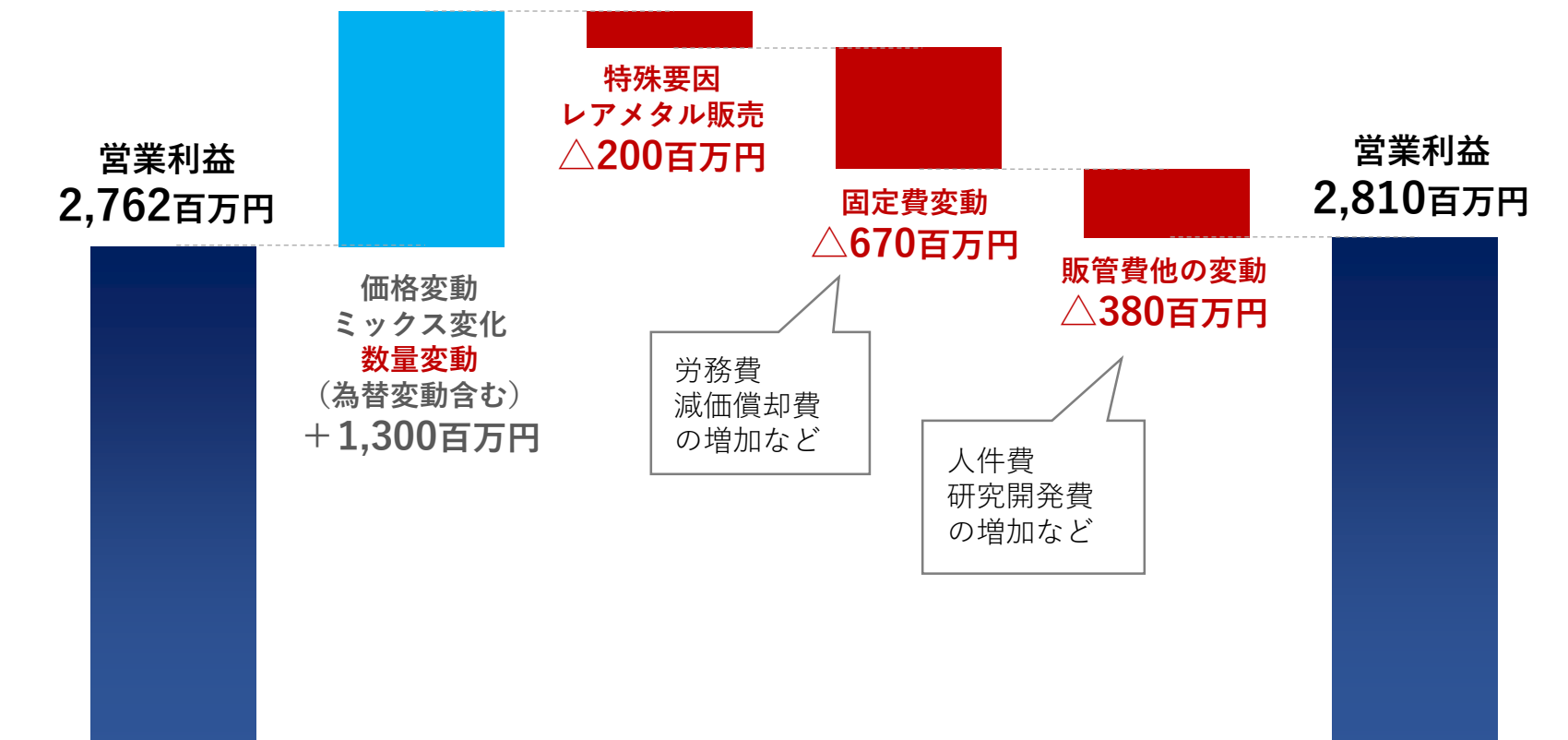


営業利益 増減分析（前年同期比）

2022年3月期
第2四半期

+48百万円

2023年3月期
第2四半期



四半期業績報告

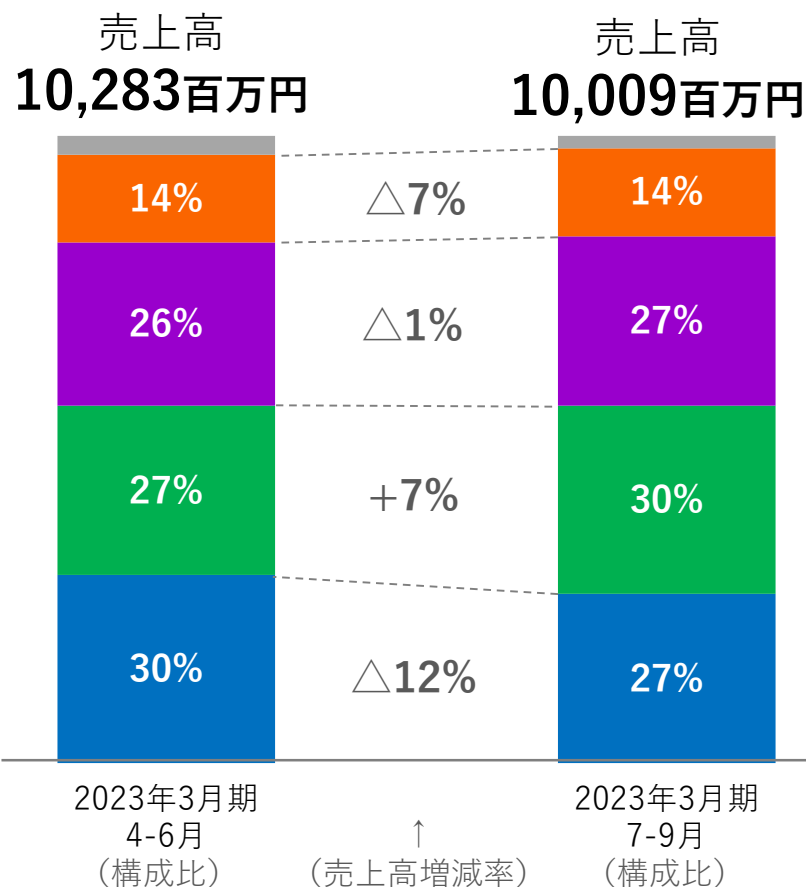
減収減益

単位：百万円

	2023年3月期 4-6月	2023年3月期 7-9月	直前四半期比	
			増減	増減率
売上高	10,283	10,009	△274 ↓	△2.7%
営業利益	1,625	1,185	△440 ↓	△27.1%
経常利益	3,019	1,732	△1,287 ↓	△42.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,015	971	△1,044 ↓	△51.8%
USD平均レート（円）	129.73	138.27	+8.54 ↑	-

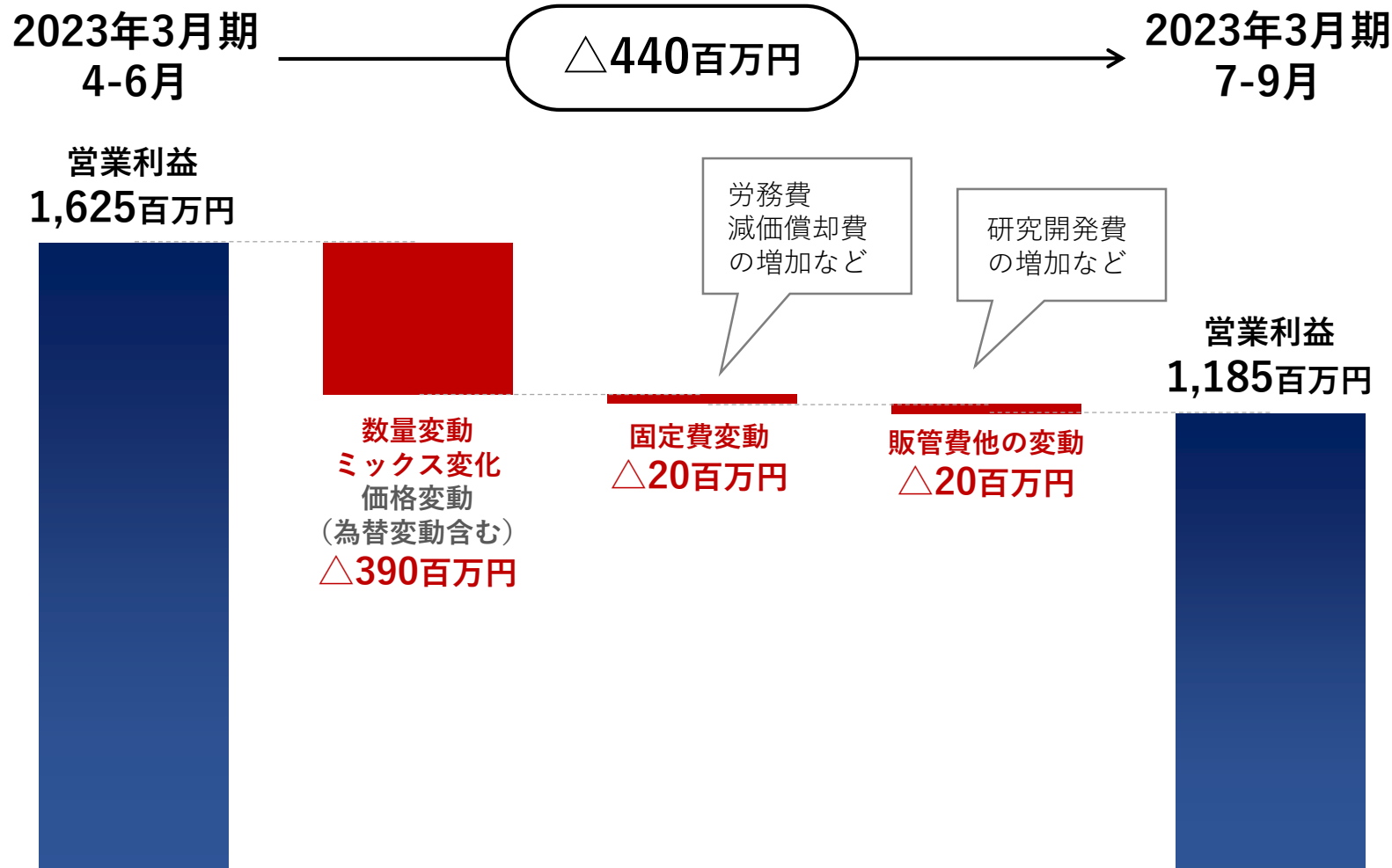
用途別販売実績（直前四半期比）

顧客の過剰在庫が顕在化



産業	半導体不足の影響とマーケットの減速感が混在
民生	情報関連（PC/SSD）が弱含み ゲーム機は半導体不足が継続
車載	価格是正の影響 ADASの進展
通信	過剰在庫が顕在化

営業利益 増減分析（直前四半期比）



設備投資/減価償却費/研究開発費

単位：百万円

前年同期比

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減
設備投資	2,666	3,576	+910
減価償却費	1,659	1,890	+231
研究開発費	1,042	1,071	+29

主な設備投資

- ・ フォトリソ関連設備
- ・ サーミスタ付振動子
- ・ 基幹システムなど

直前四半期比

	2023年3月期 4-6月	2023年3月期 7-9月	増減
設備投資	1,549	2,027	+478
減価償却費	924	966	+42
研究開発費	509	562	+53



徳島事業所クリーンルーム

通期業績予想

下方修正

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期		
	通期	上期実績	下期予想	通期予想
売上高	41,306	20,292	19,208	39,500
営業利益	5,194	2,810	1,190	4,000
経常利益	6,547	4,751	649	5,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,848	2,986	414	3,400
※ ROE	12.6% (8.8%)	-	-	9.9% (7.3%)
※ ROIC	6.6% (6.4%)	-	-	4.0% (4.0%)
USD平均レート（円）	112.39	134.03	140.00	137.02

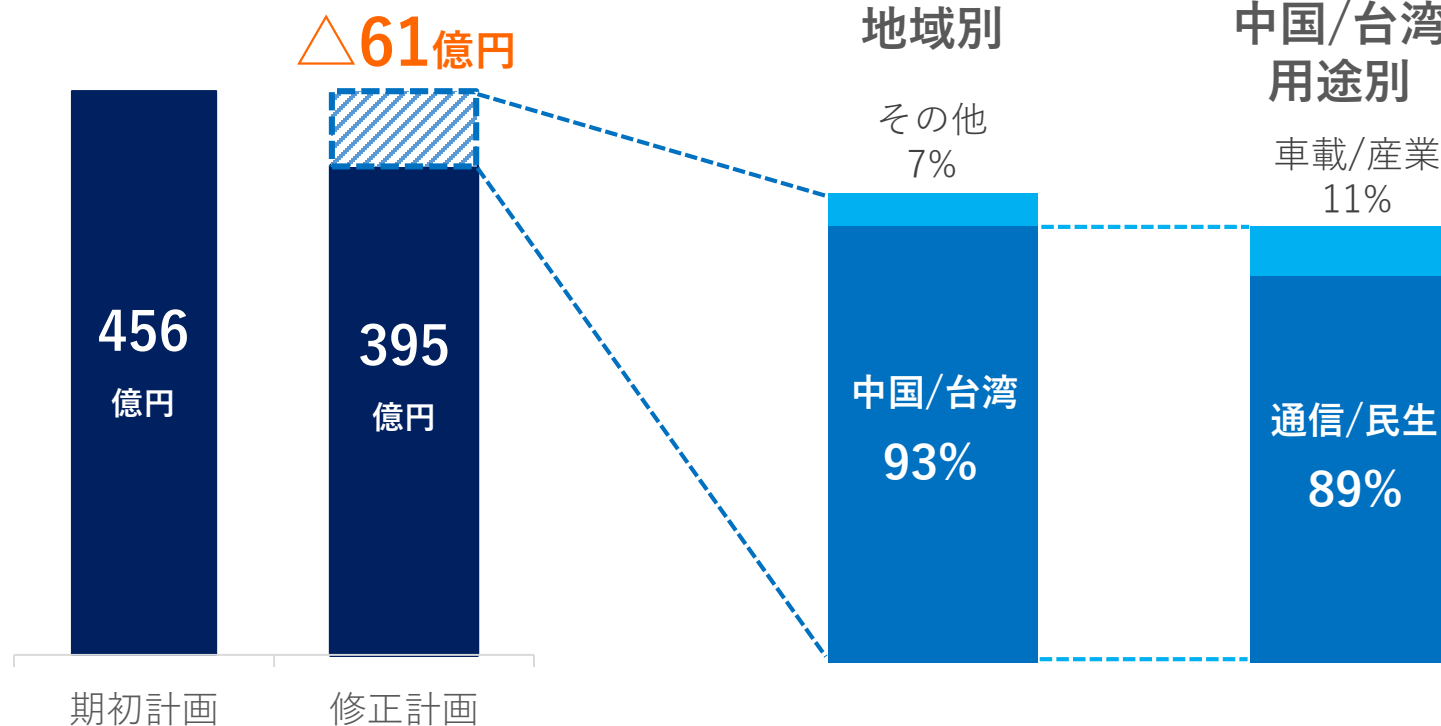
※()は為替差益の影響を除いた値

期初計画とのギャップ

中国/台湾における乖離が主要因

売上高

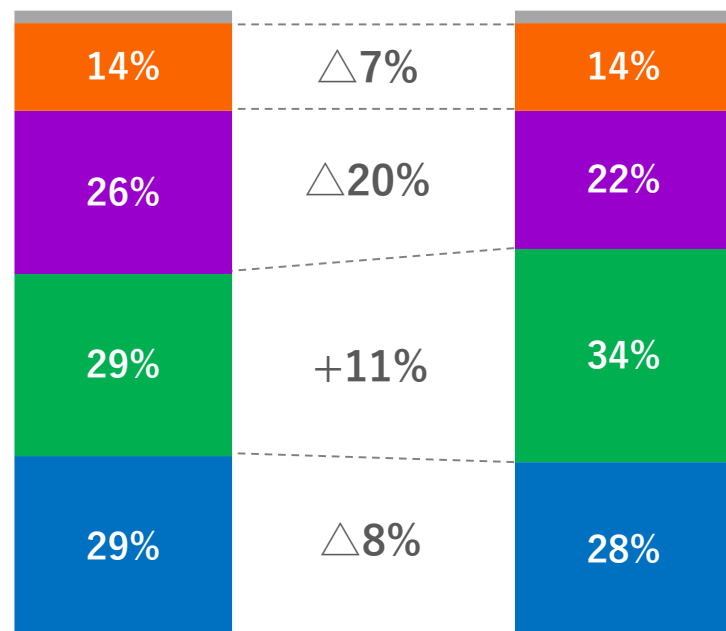
ギャップの内訳



用途別販売（上期実績対下期予想）

車載マーケット
は堅調に推移

売上高 20,292百万円 売上高 19,208百万円



産業	設備投資抑制の影響見込む
民生	情報関連（PC/SSD）の在庫調整
車載	半導体不足が継続するも、ADAS向けが進展
通信	最終需要の弱含みにより在庫調整が継続

2023年3月期
上期
(構成比)

↑
(売上高増減率)

2023年3月期
下期
(構成比)

営業利益 増減分析（上期実績対下期予想）

2023年3月期
上期

△1,620百万円

2023年3月期
下期

営業利益
2,810百万円

稼働調整と
エネルギーコストの増加

価格変動
数量変動
ミックス変化
(為替変動含む)
△1,090百万円

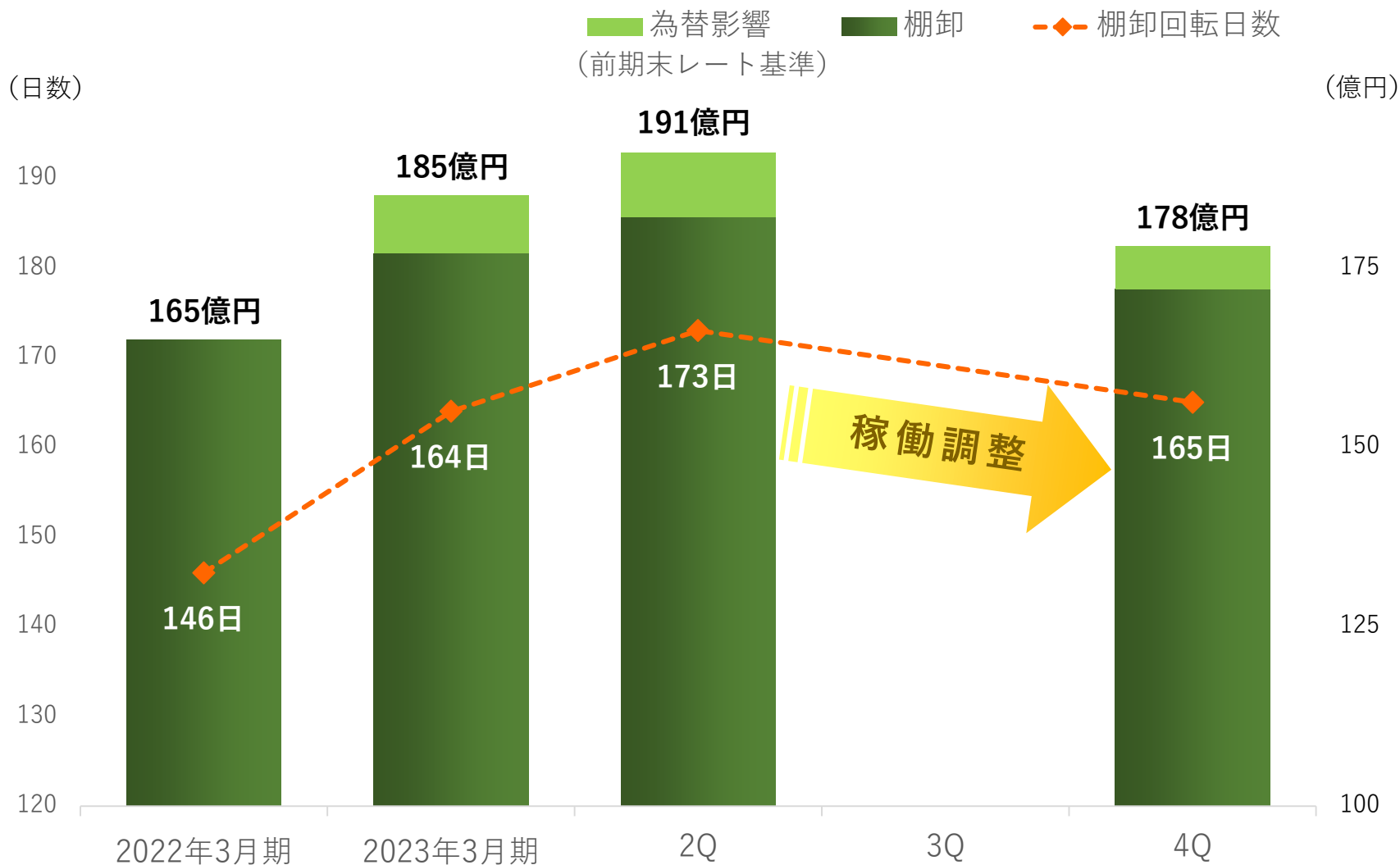
固定費変動
△370百万円

販管費他の変動
△150百万円

営業利益
1,190百万円

電気代高騰
△350百万円

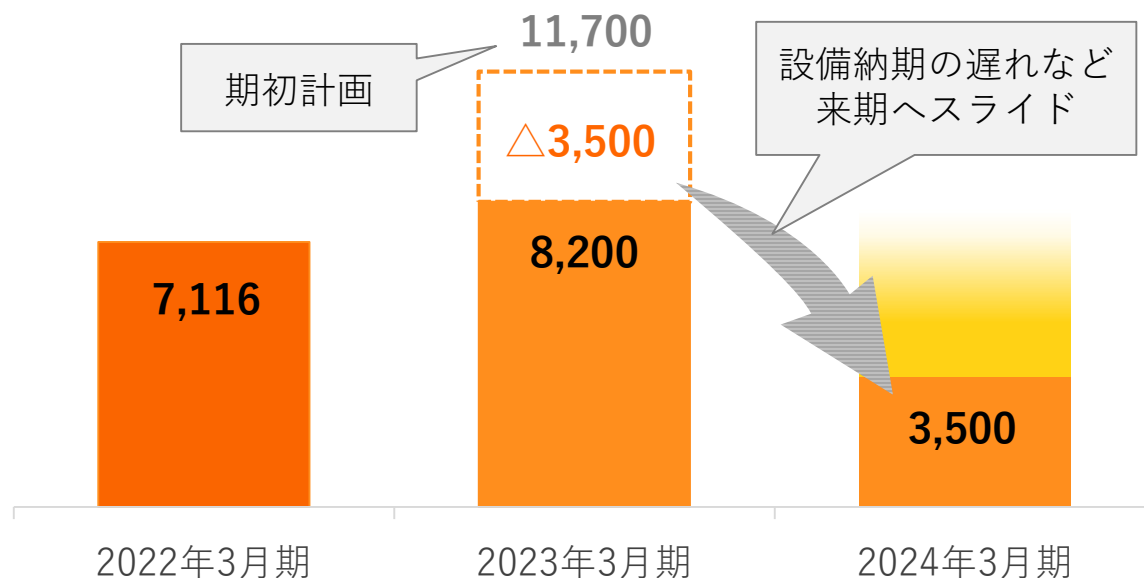
棚卸資産推移



設備投資の状況

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	増減
設備投資	7,116	8,200	+1,084
減価償却費	3,494	3,800	+306
研究開発費	2,171	2,300	+129



中期計画

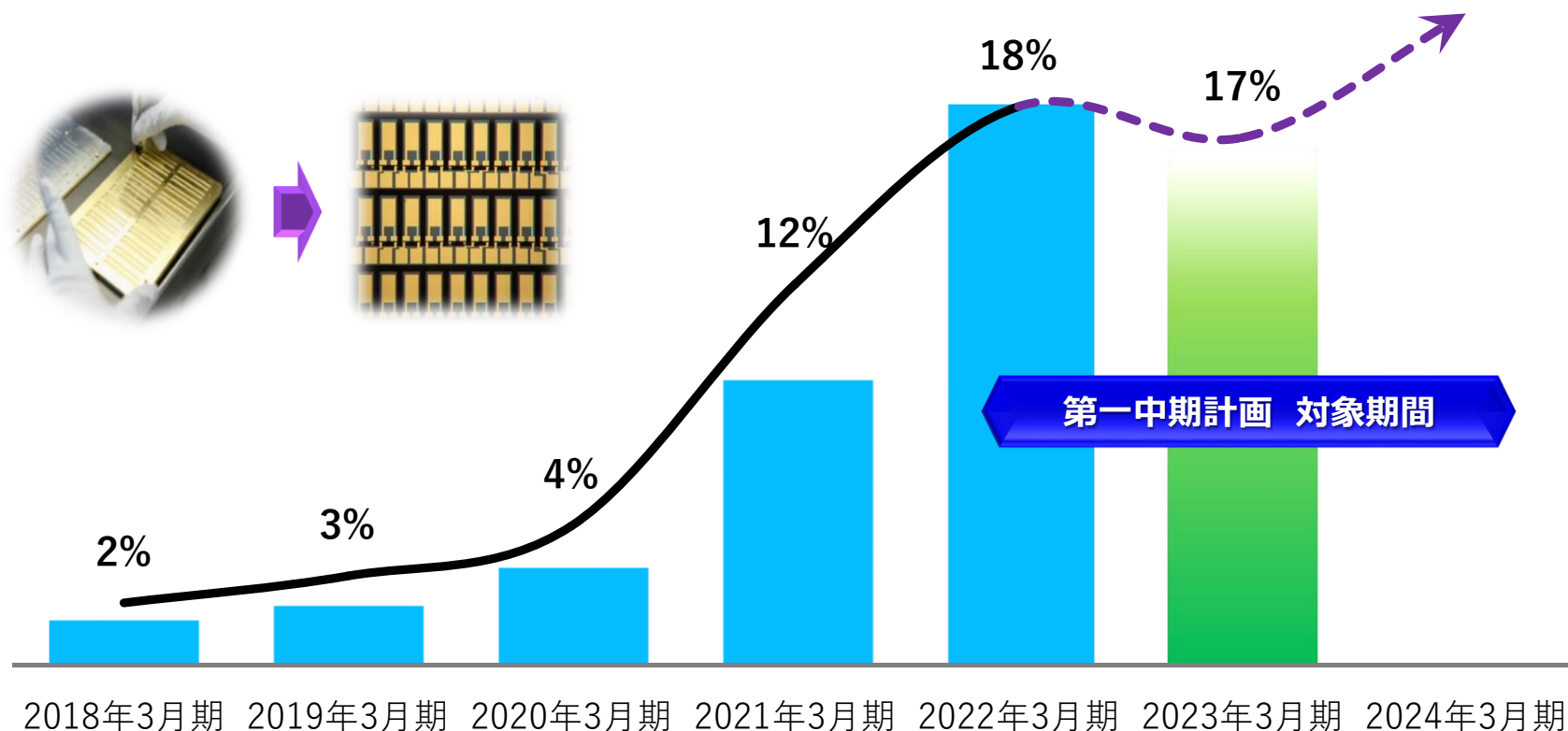
第一中期の期間で
200億円以上投資

➔ **変更なし**

フォトリン比率推移

中国の通信マーケットが低調に推移したためフォトリン比率は減少

中計3年目
21%以上



来期のマーケット見通し

通信

スマホの生産台数は前年並みも在庫調整が進み需要は回復基調

上期



下期



車載

- ・半導体不足の影響は段階的に解消するも前半までは継続見込む
- ・ADAS向けなど員数増は継続し受注環境は良好

上期



下期



民生

テレワーク需要などコロナ特需の反動が継続

上期



下期



産業

設備投資抑制が懸念材料

上期

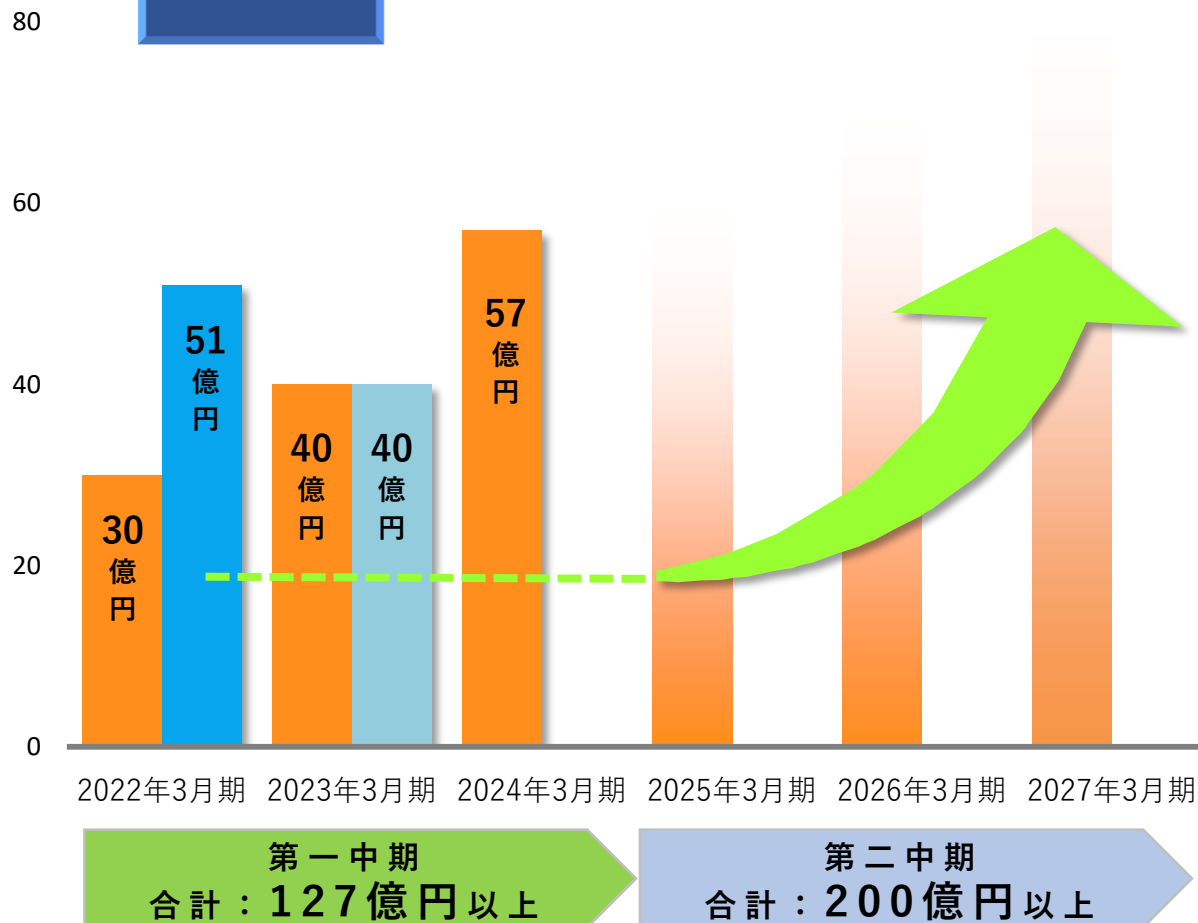


下期



中期経営計画

営業利益



外部環境の変化

世界情勢

- ・ 為替動向
- ・ 米中問題
- ・ ロシア/ウクライナ問題
- ・ パンデミック
- ・ リセッション
など

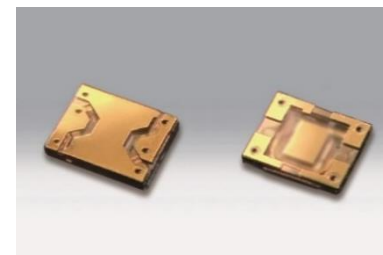
エレクトロニクス業界

- ・ 在庫調整
- ・ 設備投資の抑制
- ・ 供給過剰
- ・ データ通信量の増加
- ・ 自動運転/EVの普及
など

当社オリジナルの成長ドライバー

		第一中期 基盤整備	
		2021	2022
One	▶ Arkhシリーズ		▶ Arkhシリーズ
Cost	▶ Arkh.5G (OCXO) モールド製品		▶ Arkhシリーズ フレキシブルライン
Element	▶ ウエハ大判化 (6inch)		▶ 高純度原石 (High Q)
Alliance	▶ 担当部門の設立		
Niche	▶ アミューズメント用発振器		
+2	▶		▶ 圧カスイッチ 薄膜サーミスタ
		実績	予定

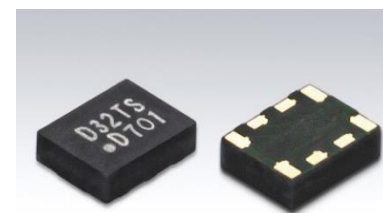
競争領域へ



IC内蔵への取り組み



6inch原石引き上げ

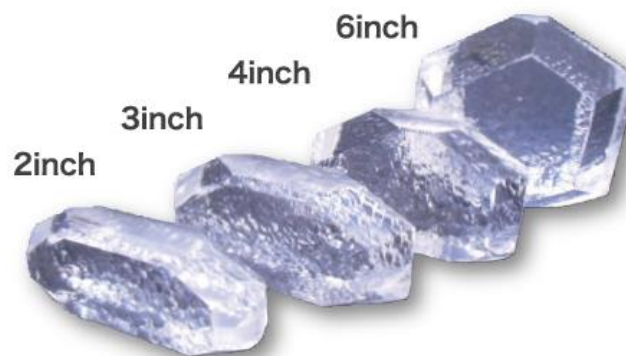
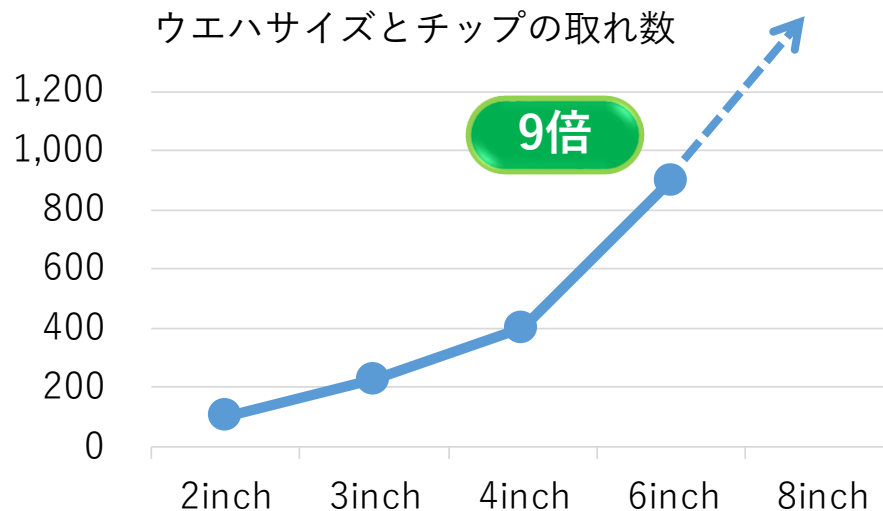


車載用RTCの拡販

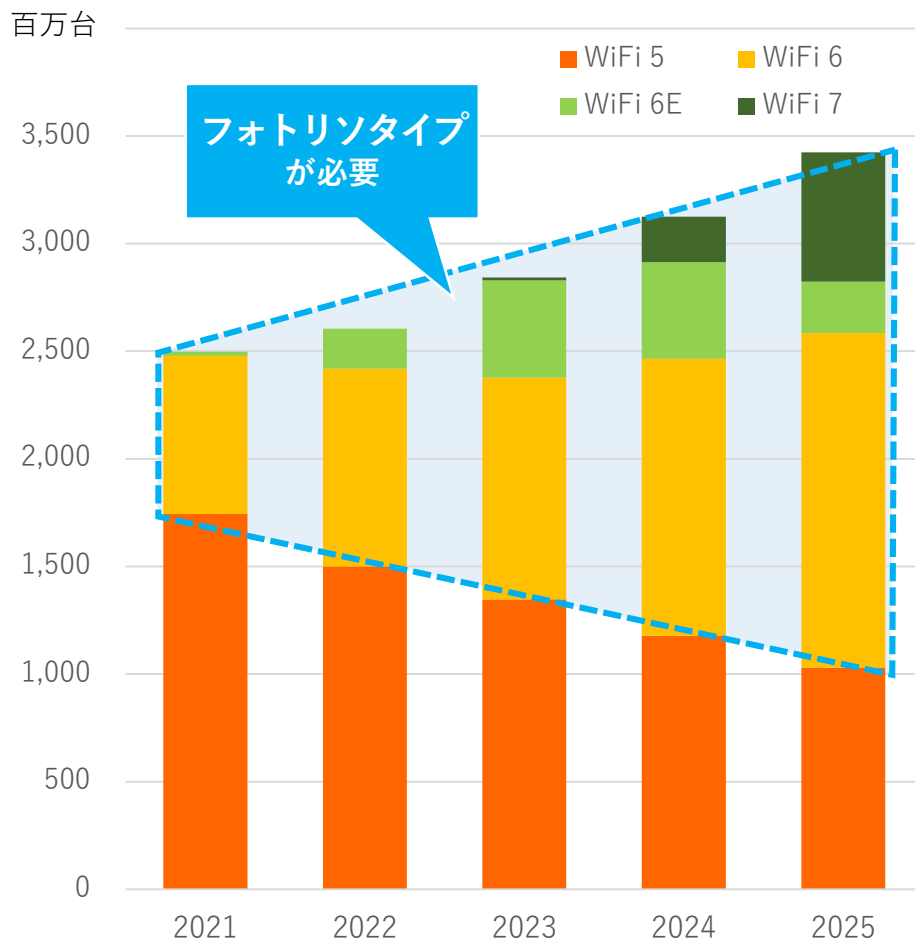
コスト競争力の強化



ウェハサイズとチップの取れ数



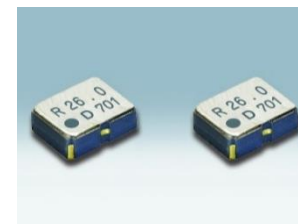
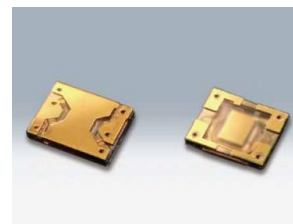
Wi-Fiマーケット



水晶の高周波化が継続
→ **フォトリンタイプ**が増加

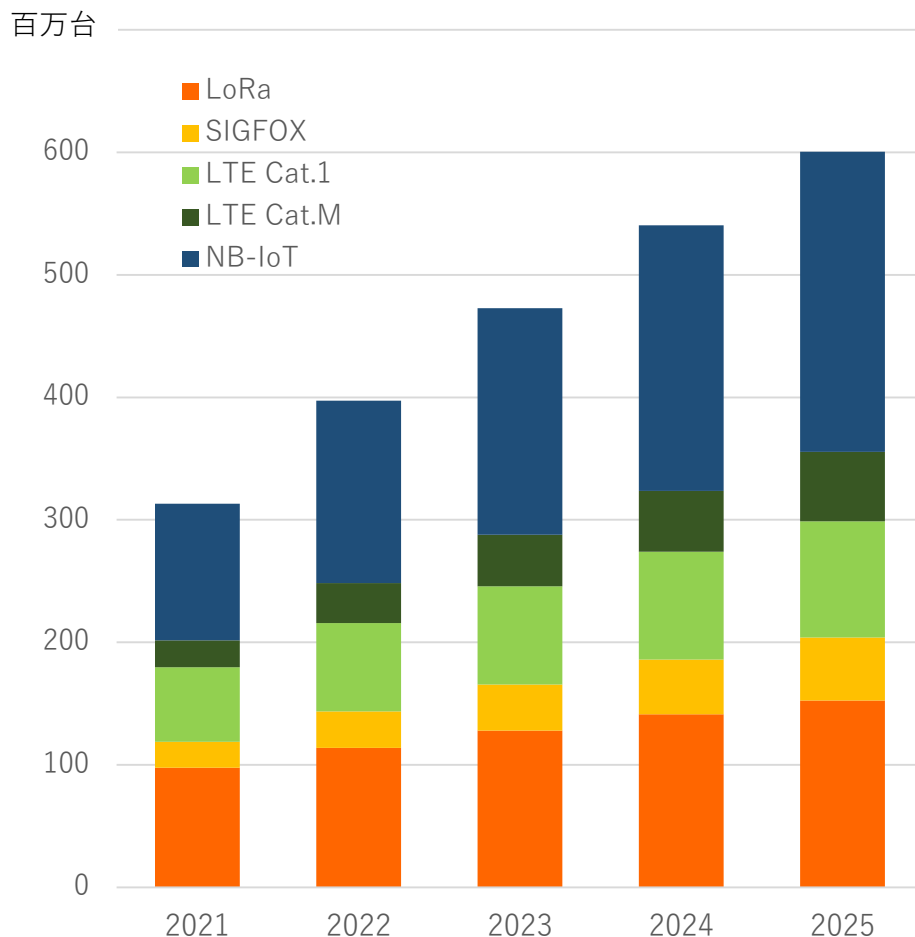
KDSフォトリン製品

- ・ Arkhシリーズ
 - ・ 高周波振動子
- 車載用途
- ・ TCXO



※出典：TSR

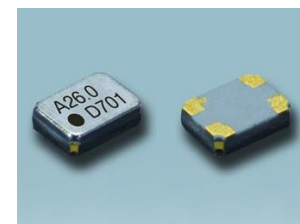
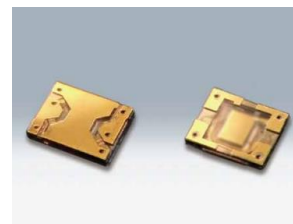
LPWAマーケット



GPS機能が追加搭載
→ **TCXO**が必要

KDSフォトリソ製品

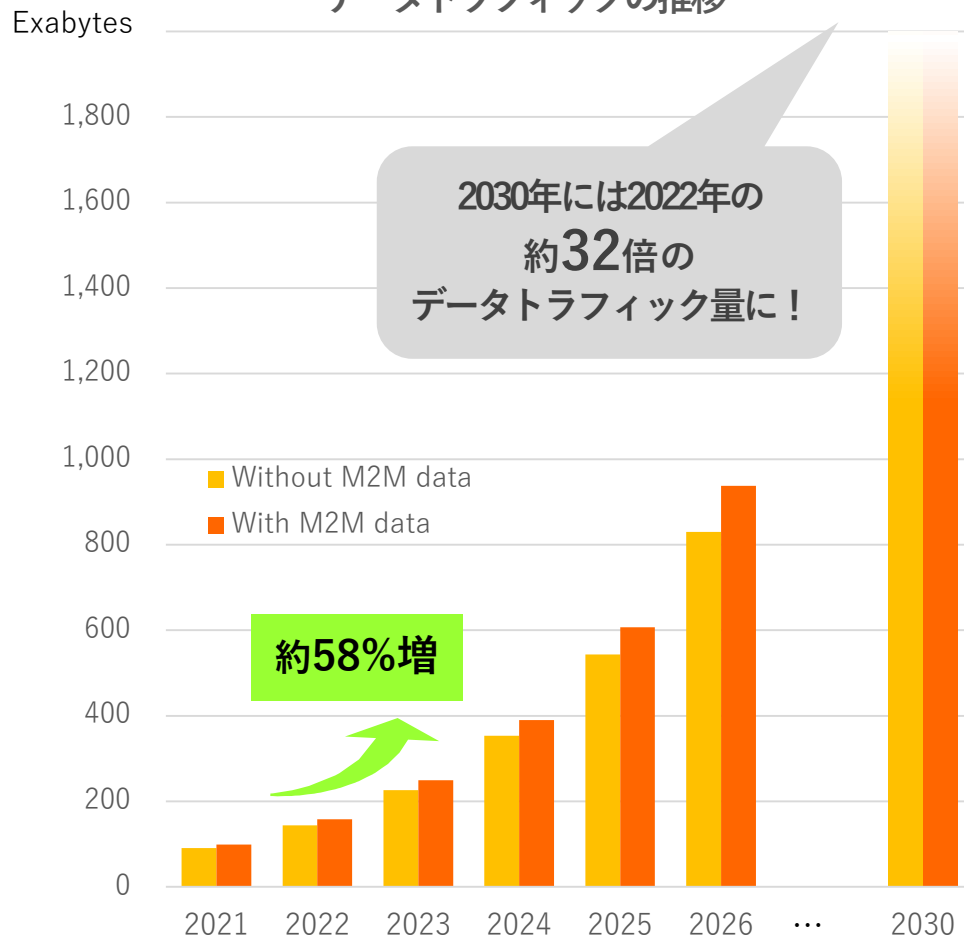
- TCXO
- 小型音叉型振動子
- モールドタイプ発振器



※出典：TSR

ネットワーク関連マーケット

データトラフィックの推移



2030年には2022年の
約**32倍**の
データトラフィック量に！

約**58%増**

※出典：Cisco資料

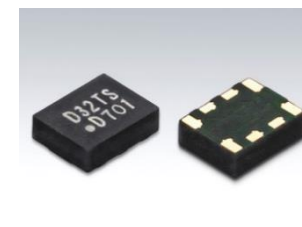
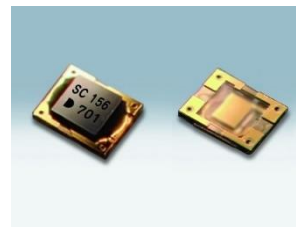
ターゲット市場

データセンタ
サーバ/ストレージ
光トランシーバなど

→発振器が必要

KDSフォトリソ製品

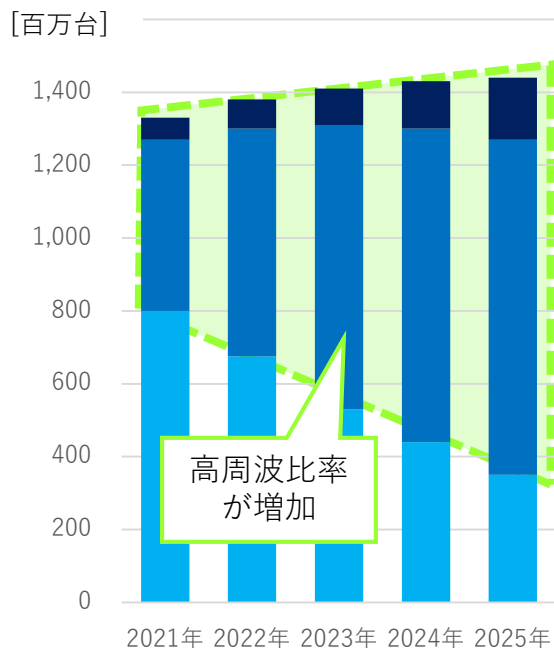
- ・ 差動出力発振器
- ・ OCXO
- ・ RTC
- ・ モールドタイプ発振器



マーケット推移と事前準備



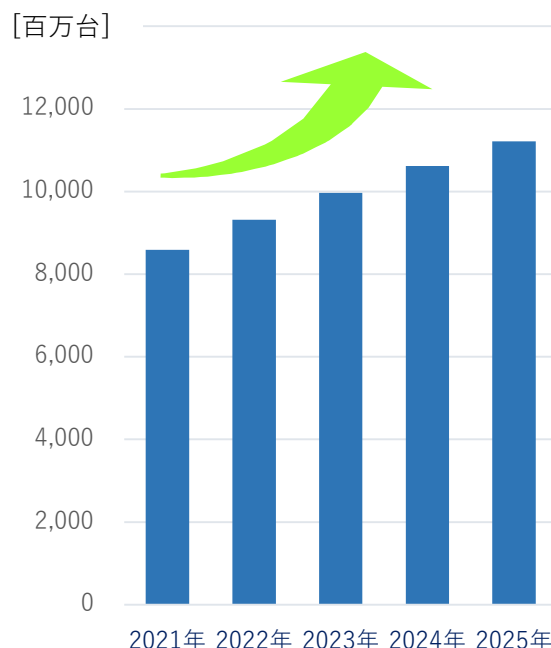
5Gマーケット



機種 高周波振動子 (サーミスタ)



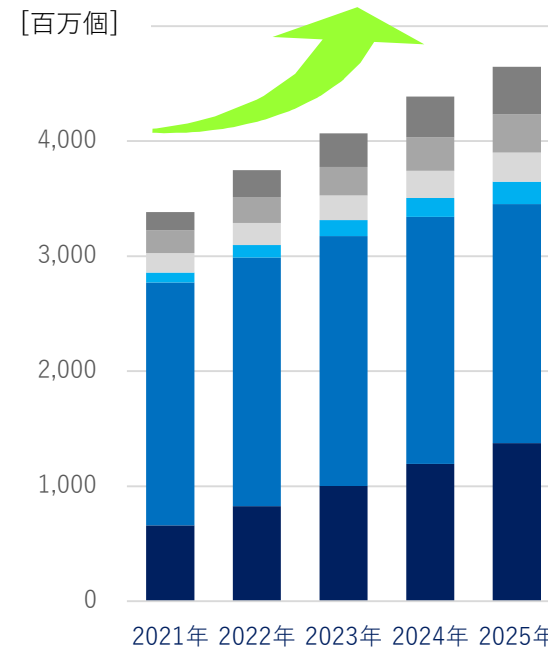
BLEマーケット



機種 小型音叉型振動子



車載マーケット



機種 小型振動子

すべてのマーケットに対して**設備投資完了**◎

エリア別販売動向



欧州

シェアアップ



基地局

産業用機器



インド

新規開拓



産業市場

車載市場



アメリカ

シェアアップ



データセンタ

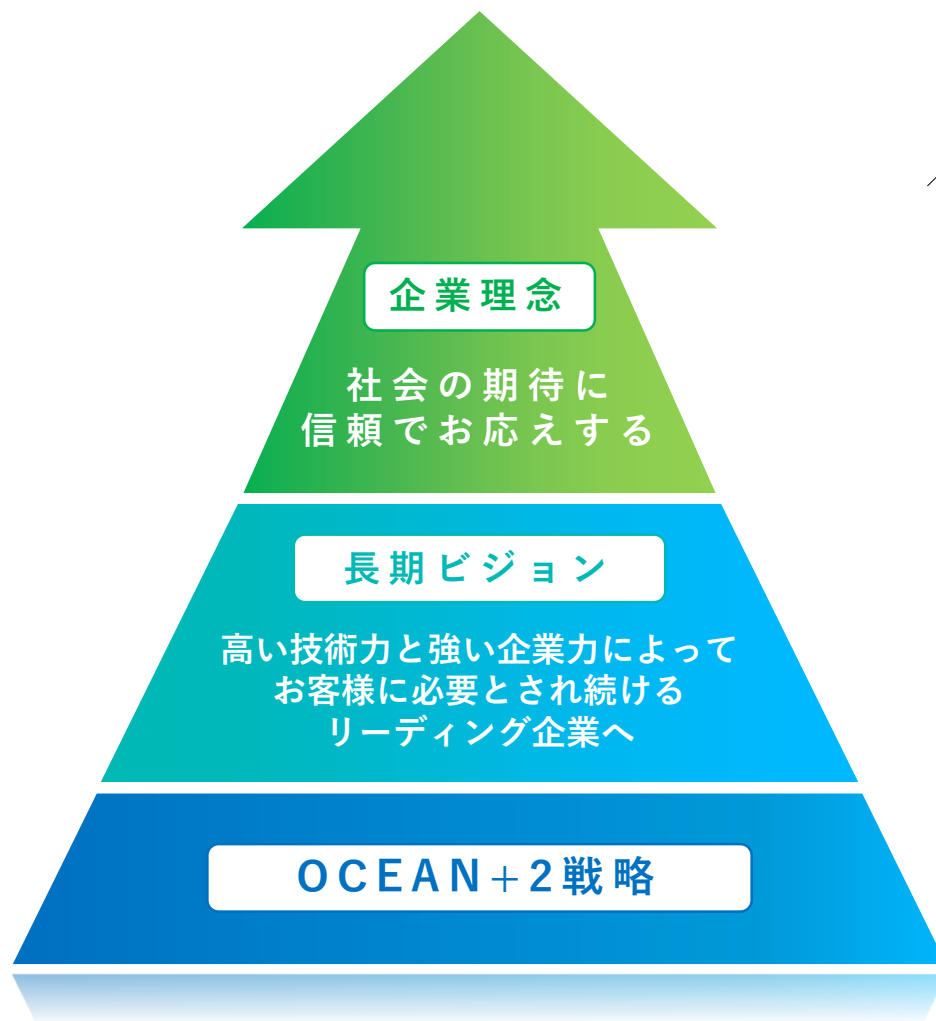
電気自動車



6inchウエハ用 人工水晶



持続的な成長へ



「OCEAN+2戦略」 7つの基本戦略

- One** ▶ 一社供給
- Cost** ▶ 低コスト域への挑戦
- Element** ▶ コアテクノロジー：水晶の育成
- Alliance** ▶ 共創
- Niche** ▶ 残存者利益
- +1** ▶ 新たな結晶
- +2** ▶ 新たなデバイス